

〔編集復刻版〕

# サンデー時評

大宅壮一没後50年記念出版

全2巻



公益財団法人大宅壮一文庫提供



「二億総白痴化」「駅弁大学」をはじめとする数々の流行語を生みだし、「マスコミの王様」と呼ばれた国民的評論家・大宅壮一（一九〇〇～一九七〇）。その大宅が激動の同時代を論評した、「サンデー時評」（『サンデー毎日』連載一九六五年一月二七日号～一九七〇年二月一日号）。

大宅評論の集大成でありながらも全集未収録多数の「サンデー時評」全二四四回を没後五〇年目に初めて編集・復刻！

- 編・解題・主要人名索引——阪本博志
- 推薦——藤井淑禎・佐藤卓己
- 揃定価——40,000円＋税

# 「サンデー時評」

## 復刻版を推す

藤井淑禎 ●立教大学名誉教授

**戦** 後大衆文化や松本清張を専門としているので、大宅壮一の仕事と出くわすことも少なくない。ところが、戦後を代表するという点では清張とともに双璧ともいべき存在でありながら、大宅への注目や言及の少なさにはかねてから疑問をもっていた。しかもそれらは関係者による回想的なアプローチがほとんどで、第三者による研究的なそれは皆無に等しかった。

そんな経緯があったので、『文学』（岩波書店）編集部岡本潤さんが「戦後大衆文化と文学」という意欲的な特集（二〇〇八年三・四月号）を企画した時、私がまっさきに思いをめぐらしたのは、誰が、どんな、大宅論を書いてくれるだろうかということであった。そしてこの時までの期待にこたえて「大宅壮一研究序説」という画期的な大宅研究をスタートさせたのが、本企画の責任者である阪本博志氏だったのである。

阪本氏の「戦後」という労作に結実したことは周知のとおりだが、それに続くかのように、このたび「サンデー時評」復刻版が大宅没後五〇年の記念として出版されるといふ。「サンデー時評」には私も幾度となくお世話になったが、大宅最晩年の作でありながら、テーマものの著作とはちがって同時代のさまざまな事象に総花的に言及した賑わいが持ち味であり、久々の大宅紹介本として本書に勝るものはないのではなからうか。「サンデー時評」復刻版を推すゆえんである。

# 「昭和元禄年代記」

## としてのメディア資料

佐藤卓己 ●京都大学大学院教授

**大** 宅壮一は昭和を代表する国民的評論家である。昭和初年に自ら編集発行した『社会問題講座』全三巻（新潮社、一九二六〜一九二七）の大成功で名を挙げて以降、一九七〇年に没するまで膨大な時評を書き残した。「カラスの鳴かぬ日はあつても、大宅壮一の声を聞かぬ日はない」浅沼稲次郎とは、まさに至言である。それゆえ、大宅の時評を避けて昭和史を論じることなど到底不可能である。私自身、『キング』の時代——国民大衆雑誌の公共性』では「講談社チャイナリズムに挑戦する」（『経済往来』一九三五年八月号）を、あるいは『テレビ的教養——一億総博知化への系譜』では「マス・コミの白痴化」（『東京新聞』一九五六年二月七日）を議論の起点として引用した。

最近、阪本博志『大宅壮一の「戦後」』（人文書院、二〇一九年）を読んで驚嘆した。またこんなにも全集未収録の重要資料が残っていたのか、と。いわゆる大宅マスコミ塾の弟子筋が編纂した『大宅壮一全集』（蒼洋社）は全三〇巻と壮観だが、「全集」と呼ぶにはなお遺漏が多い。阪本氏は新著巻末に、大宅が『週刊朝日』『週刊文春』『サンデー毎日』『週刊娯楽よみうり』『週刊コウロン』などに連載した記事や対談の総目録を収めている。「サンデー時評」についても、全集版に未収録の重要記事は少なくない。阪本氏によって編集・解題される復刻版『サンデー時評』は、「昭和元禄年代記」としてメディア史や昭和史の研究者が座右に備える決定版である。

### 関連年表

年	月	事項
1900	9	大阪府富田村（現・高槻市）の醬油屋に三男として誕生
1919	9	旧制第三高等学校文科乙類入学
1922	4	東京帝国大学文学部社会学科入学
1926	12	「文壇ギルドの解体期 大正十五年に於ける我が国ジャーナリズムの一面」を『新潮』に発表
1930	2	『文学的戦術論（中央公論社）』刊行
1933	3	『モダン層とモダン相』（大鳳閣書房）刊行
1933	3	雑誌『人物評論』創刊
1935	5	「無思想人宣言」を『中央公論』に発表
1936	10	『世界の裏街道を行く』（文藝春秋新社）刊行
1936	1	『サンケイ新聞』に「炎は流れる 明治と昭和の谷間」連載開始
1936	10	東京オリンピック開催、東海道新幹線開通
1936	3	ベトナム戦争勃発
1936	4	「マスコミにおける評論活動生活五十年」で第一三回菊池寛賞受賞
1936	10	中国、文化大革命開始
1936	9	「大宅考察組（大宅壮一・大森実・梶山季之・藤原弘達・三鬼陽之助・小谷正一・秦豊、中国訪問
1936	1	「大宅壮一東京マスコミ塾」開塾
1936	4	美濃部亮吉東京都知事、初当選
1936	6	第3次中東戦争勃発
1936	5	日大で全学共闘会議結成
1936	1	東大田講堂事件
1936	6	経済企画庁、日本のGNPが世界第2位と発表
1936	7	アポロ11号初月面着陸
1936	9	「大宅壮一ノンフィクション賞」創設を文藝春秋社長が発表
1936	3	赤軍派、日航機「よど号」ハイジャック
1936	3	日本万国博覧会（大阪万博）開催
1936	11	心不全のため永眠（享年70歳）
1936	11	三島由紀夫、自衛隊市ヶ谷駐屯地で割腹自殺
1936	5	財団法人大宅文庫（現・公益財団法人大宅壮一文庫）設立
1936	9	「大宅壮一全集」、全30巻・別巻1巻完結（蒼洋社刊）



# サンデー時評

## 大宅壮二没後50年記念出版

全2巻

●編・解題・主要人名索引

阪本博志(宮崎公立大学准教授・「大宅壮二」の「戦後」(人文書院刊)著者)

●推薦 藤井淑禎(立教大学名誉教授)

佐藤卓己(京都大学大学院教授)

●協力 公益財団法人大宅壮一文庫

●体裁 B5判・上製・総約510ページ

●揃定価 40,000円+税

●刊行 2020年9月一括刊行

ISBN978-4-86617-093-0

### 第1巻

1965年10月～67年12月

(巻頭に解題・巻末に主要人名索引  
|| 阪本博志)

### 第2巻

1968年1月～70年11月



1965年10月、茨木高校創立七十周年祝賀大会で川端康成(左端)と講演(大阪府立茨木高等学校久敬会提供)

## 「職場の歴史」関係資料集成 全4巻

◆編・序文|| 竹村民郎

◆解説|| 古川誠・稲賀繁美

◆年表|| 永岡崇

敗戦直後と高度経済成長到達のはざまに生まれ  
た、一九五〇年代の若い世代の生活記録！

女性も含めた労働者や会社員たちの手による、  
「自分の仕事や生活を綴ること」|| 歴史を叙述す  
ること」の実践記録。

「母の歴史」「サークル村」にならぶ、全国で展  
開された戦後文化運動として、地に足をつけたサ  
ークル運動の貴重な足跡を編集復刻！

●体裁—— B5判／上製／総約1,700ページ

●揃定価—— 80,000円+税(全2回配本)

●推薦—— 岩井忠熊・鳥羽耕史

第1回配本 2017年11月刊

本体40,000円+税 ISBN978-4-86617-038-0

第2回配本 2018年5月刊

本体40,000円+税 ISBN978-4-86617-038-1

## 「黒い羽根」の戦後史 —炭鉱合理化政策と失業問題

◆著|| 藤野豊

合理化政策とエネルギー革命によって失業し、  
悲惨な生活を強いられた炭鉱労働者とその家族に  
対して、世論を動かし「炭鉱離職者臨時措置法」  
をとにかくも成立させるまでの15年間を踏査。

●体裁—— A5判／上製／360ページ

●定価—— 2,800円+税

2019年9月刊 ISBN978-4-86617-079-4

\*表示価格はすべて税別。

